

令和2年度 ウミガラス保護増殖事業の実施状況

令和2年度第2回ウミガラス保護増殖検討会

令和3年3月1日 14:00~17:00

羽幌自然保護官事務所 自然保護官 平田 つかさ

希少種保護増殖等専門員 岩原 真利

令和2年度実施計画

1. 誘引対策

(1) 音声装置の稼働

2. 飛来・繁殖調査

(1) 繁殖地内入口のカメラの稼働

(2) 渡り調査

(3) 目視調査

3. 捕食者対策

(1) エアライフルによる捕獲

(2) 捕食者モニタリング調査

(3) ハシブトウミガラスの巣落とし

4. 普及啓発活動

5. その他

(1) 個体識別方法の検討

(2) 葛西臨海水族園との連携

(3) その他希少鳥類（ケイマフリ・ウミスズメ）調査

1. 誘引対策

- 赤岩対崖巣棚の直下付近に設置し、3～6月まで稼働
- 巣棚内のスピーカーは設置なし



音声装置
設置位置



2. 飛来・繁殖調査：今年度の変更点

COVID-19感染拡大防止のため、設置作業員を最小限に絞らざるを得ず、カメラ設置位置等を安全に実施可能な範囲に変更

- カメラ設置位置及び台数：巣棚内にカメラ4台（+インターバル2台）
→ 巣棚入口に広角カメラ1台（+インターバル2台）
- 撮影時間：4:00～20:00（日曜のみ終日） → 4:00～20:00（巣立ち期のみ4:00～24:00）
- 飛来数の把握：1時間毎の巣棚内の最大数をカウント → 抱卵期前の個体の出入りを全てカウント



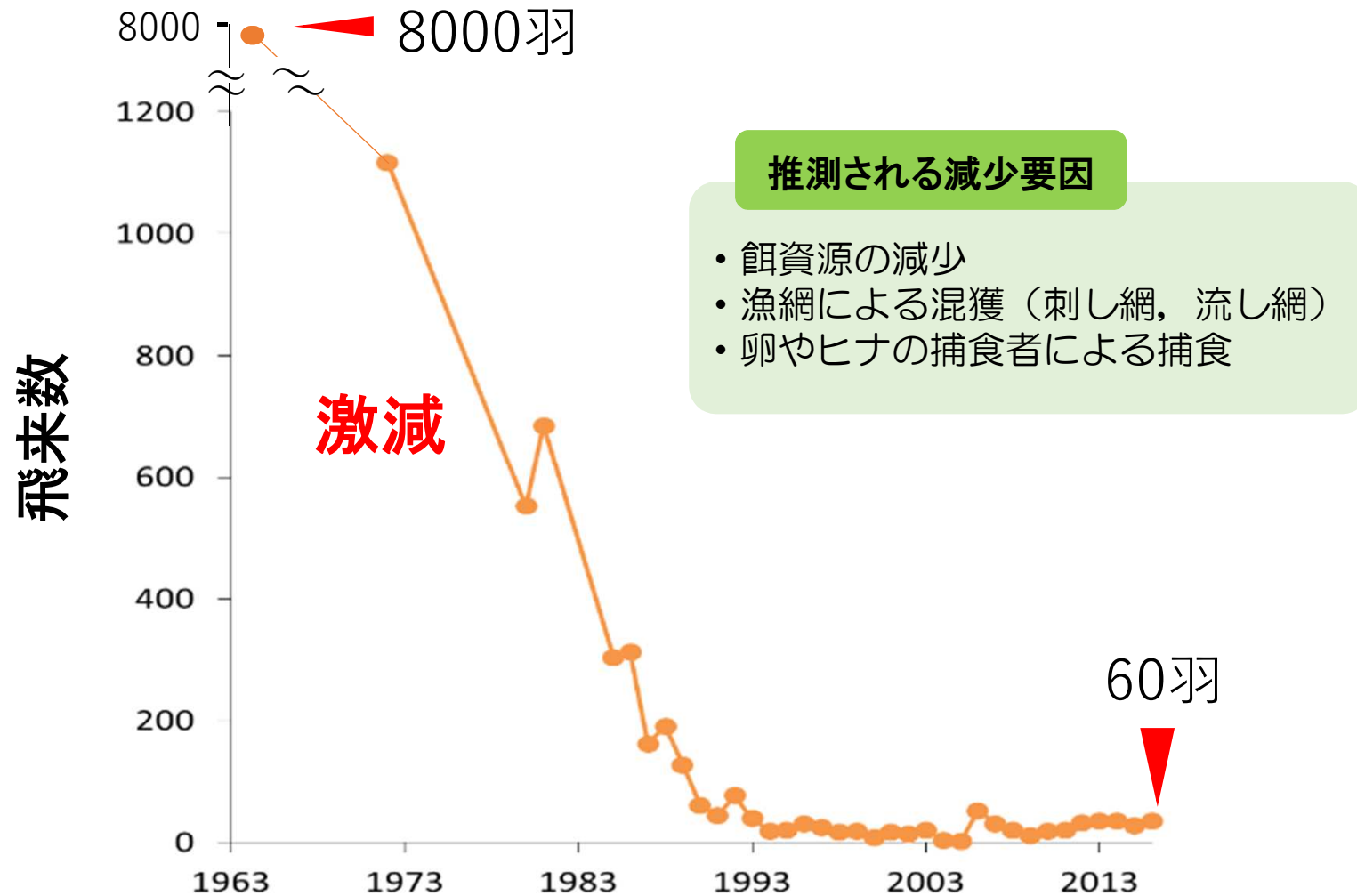
2. 飛来・繁殖調査：今年度の変更点

5

得られるパラメータ	R1以前	R2
飛来数	○	○ ※カウント方法が異なる
つがい数	○	△ ※巣立ちヒナ数から推定
ヒナ数	○	△ ※巣立ちヒナ数から推定
巣立ちヒナ数	○	○
営巣場所	○	×
卵・雛の補食数	○	△ ※雛の持ち去りのみ把握、解析中
捕食者の侵入頻度・回数・侵入経路	○	△ ※侵入頻度・回数のみ把握、解析中
その他繁殖失敗要因	○	×
餌運びの頻度、餌の種類・大きさ	○	△ ※餌運びの頻度のみ把握、解析中
産卵日、孵化日、巣立ち日	○	△ ※巣立ち日のみ把握

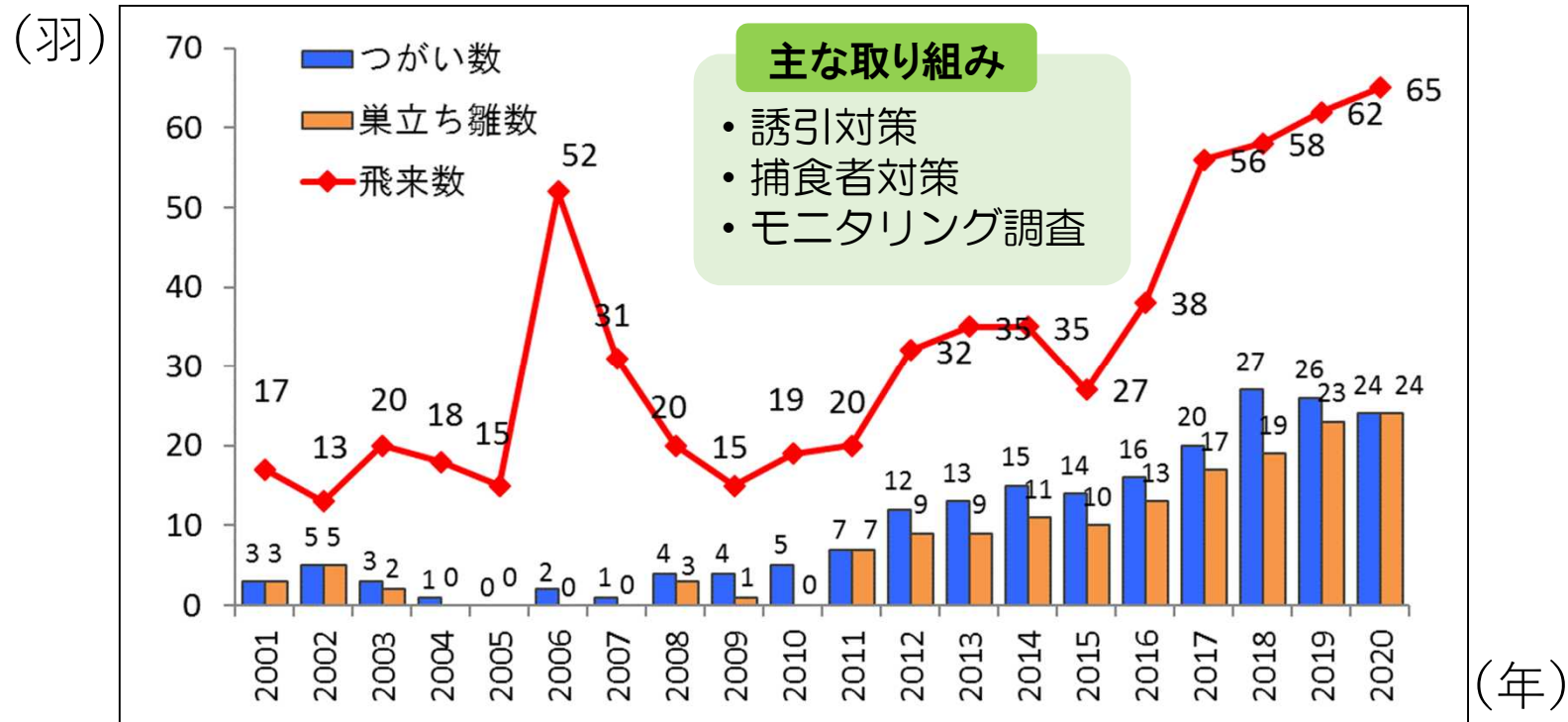
※○：把握できたもの、△：推定 or 一部分のみ把握できたもの、×：把握できなかったもの

2. 飛来・繁殖調査：参考（1963年からの飛来状況の変化）



2. 飛来・繁殖調査：結果（過去20年間の飛来状況等の変化）

- ◆飛来数：65羽（昨年比3羽増加） ➡ 過去20年で、最も多い飛来数！
 - ◆巣立ちヒナ数：24羽（昨年比1羽増加） ➡ 10年連続の繁殖成功！
 - ◆つがい数：最低24つがい
 - ◆ヒナ数：最低24羽
- ※巣立ちヒナ数からの推定値



2. 飛来・繁殖調査：結果（今年度初めて分かったこと）

右側巣棚に出入りする個体あり（インターバルカメラで撮影）



2. 飛来・繁殖調査：結果（今年度初めて分かったこと）

右側巣棚に出入りする個体あり（インターバルカメラで撮影）



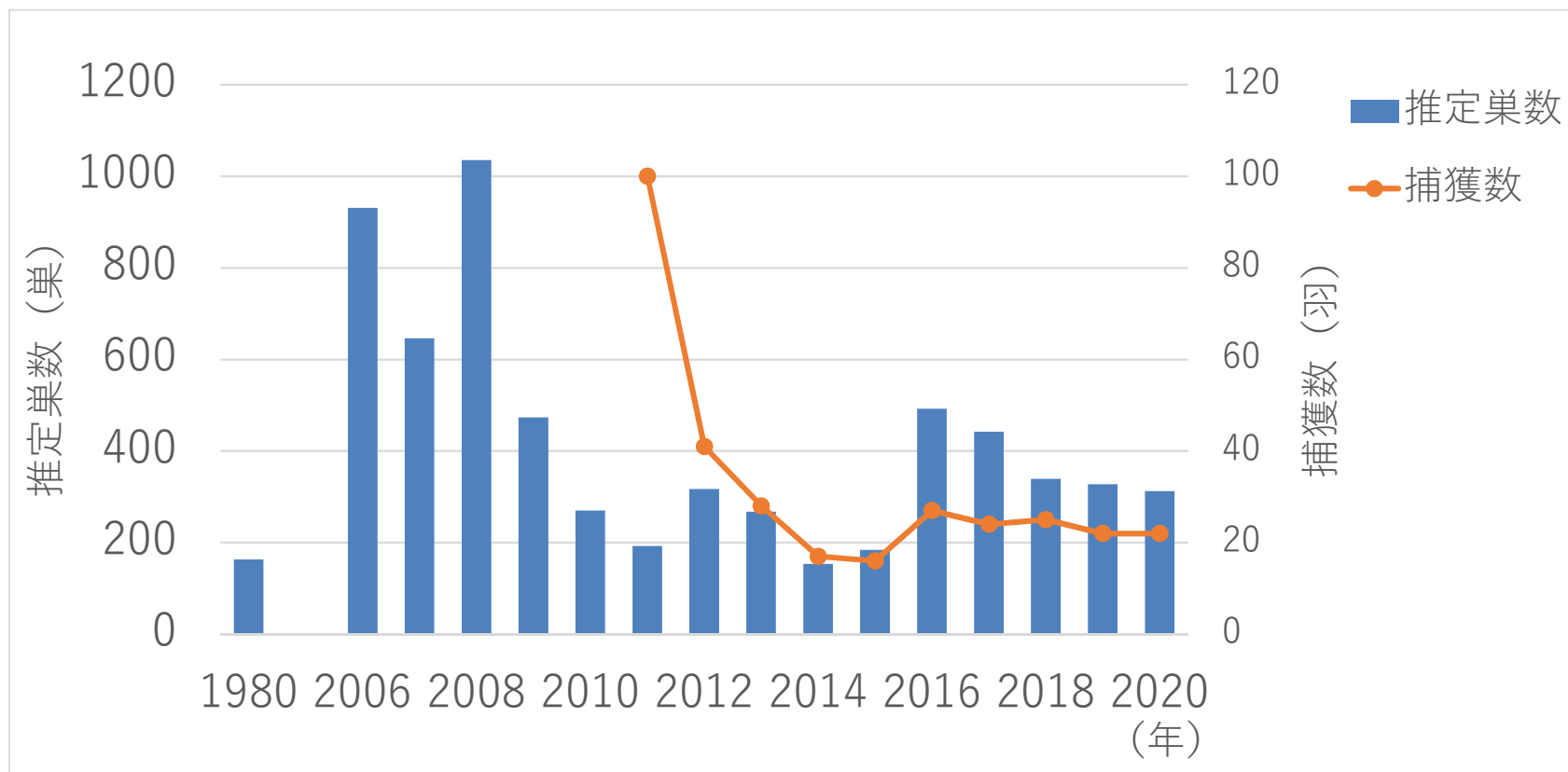
2. 飛来・繁殖調査：結果（今年度初めて分かったこと）

中央巣棚内へのドブネズミの侵入あり（広角カメラで撮影）



3. 捕食者対策：オオセグロカモメの捕獲・モニタリング結果

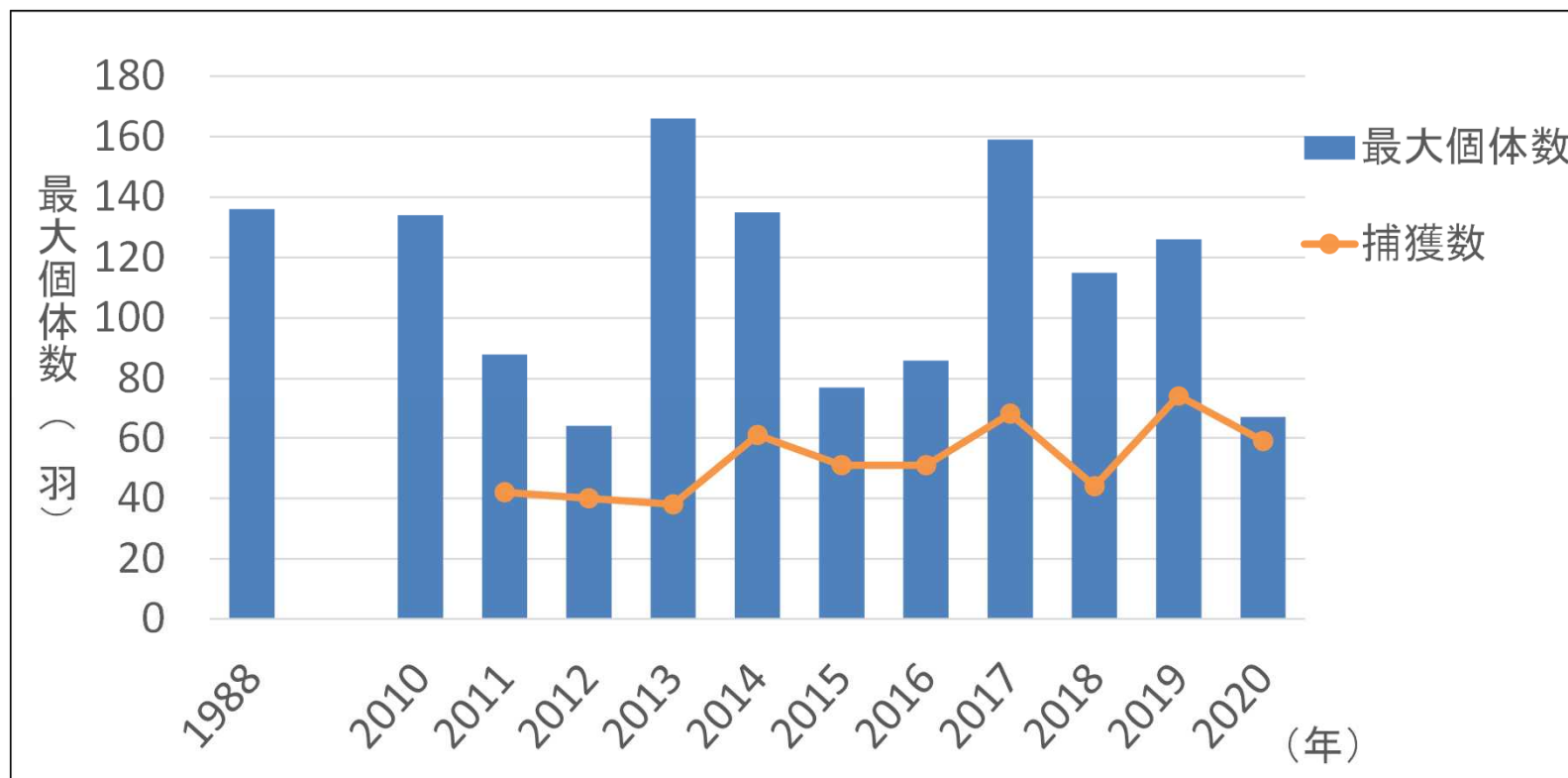
◆捕獲数：22羽 ◆推定巣数：312巣



オオセグロカモメの推定巣数と捕獲数の経年変化

3. 捕食者対策：ハシブトガラスの捕獲・モニタリング結果

◆捕獲数：59羽 ◆最大個体数：67羽



ハシブトガラスの最大個体数と捕獲数の経年変化

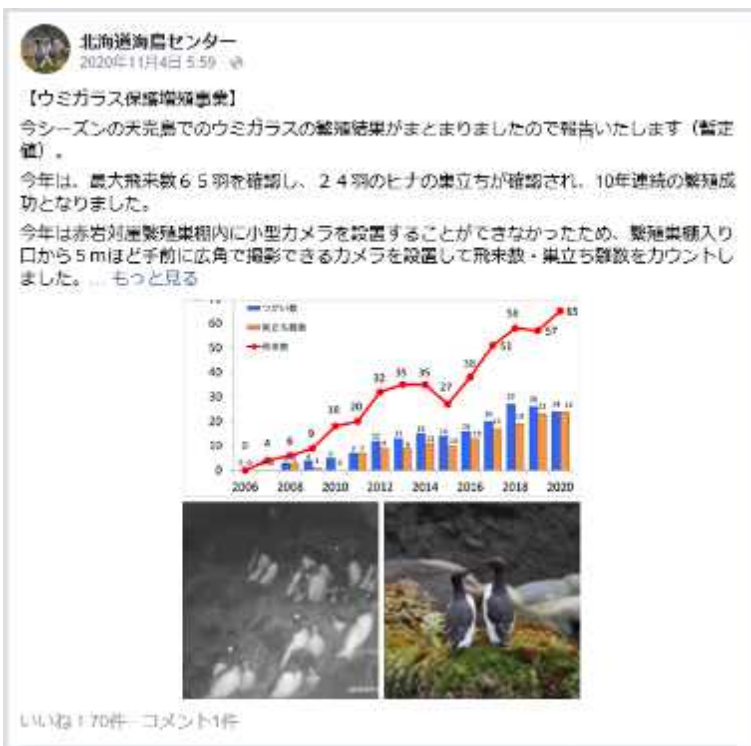
3. 捕食者対策：ハシブトガラスの巣落とし

	H30	R1	R2
巣（巣）	10	15	6※
卵（個）	0	3	3～4
ヒナ（羽）	14	9	10

※発見巣数は8巣だったが、高所や急斜面のため巣落とし不可

4. 普及啓発

- 報道機関へのプレスリリース
- SNS（海鳥センターFacebookなど）での情報発信
- 住民向け報告会（天売オロロン報告会） など



北海道海鳥センターのHPとFacebookで繁殖状況や動画を公開



天売オロロン報告会（2020/10/31 天売島内）※オンラインも活用

5. その他：個体識別方法の検討（葛西臨海水族園との連携）

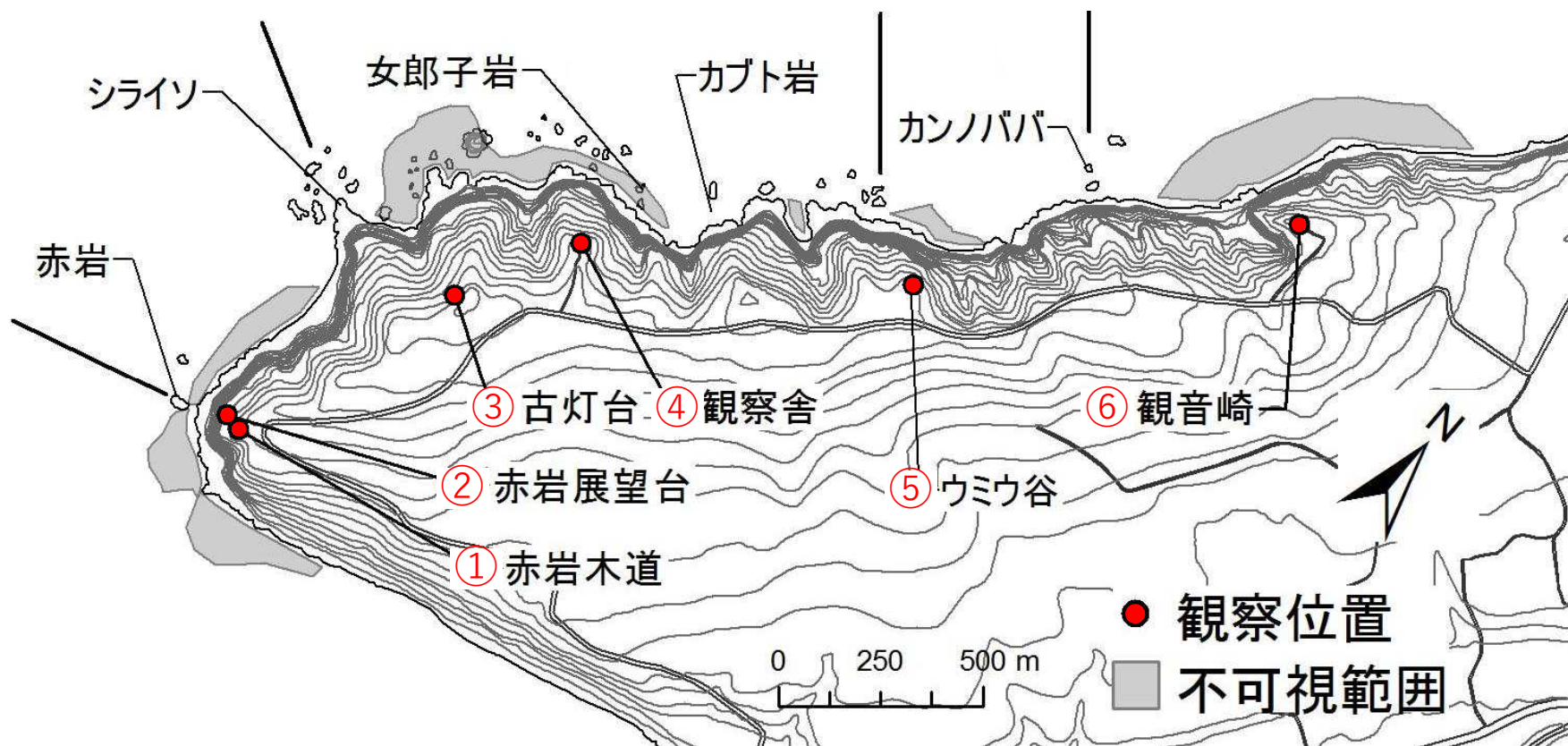
●サンプル解析中

- ・2012年に赤岩対崖巣棚の崖下で発見された雛の筋肉・肝臓
- ・2018～2019年に赤岩対崖巣棚内で採取した残渣（卵殻等）
- ・島民所有の卵殻 など



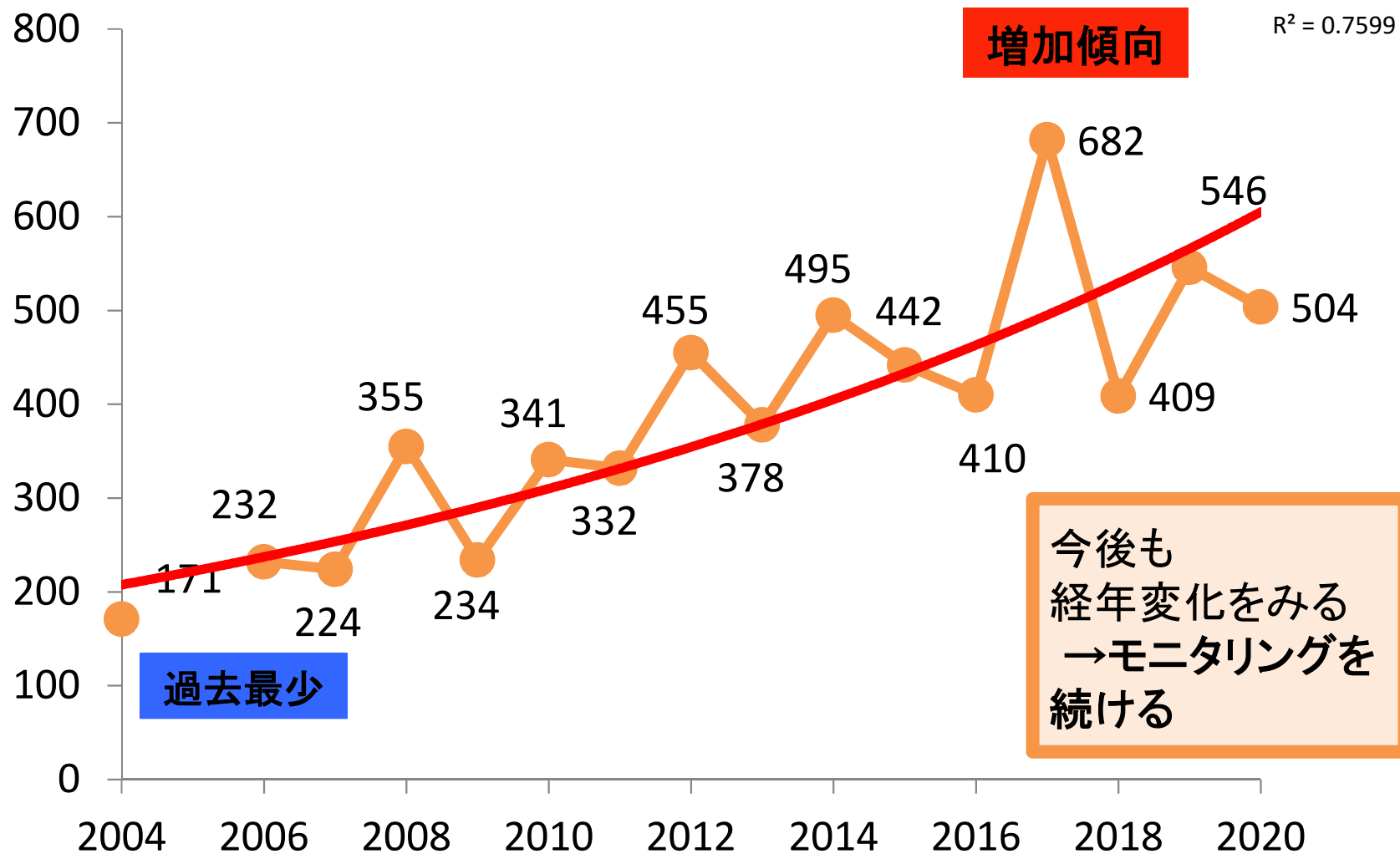
天売島の個体群が太平洋の個体群（*inornata*または*californica*）に分類されるか否かという亜種判定の他、サンプル収集を続けることで、遺伝的多様度（移入個体の有無）等も解析できる可能性あり

5. その他：ケイマフリ調査結果

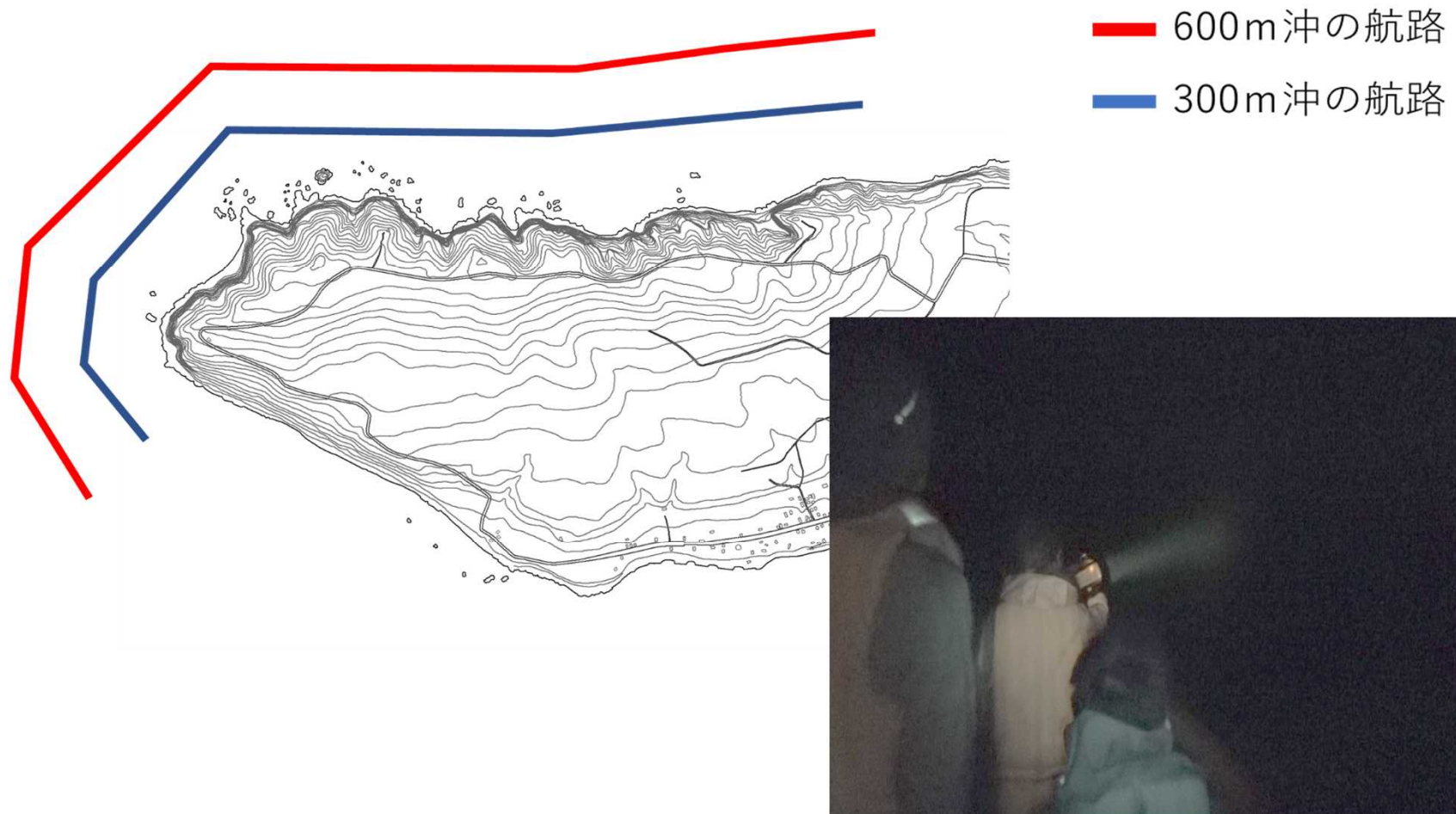


4/3～7/29 6地点 9回

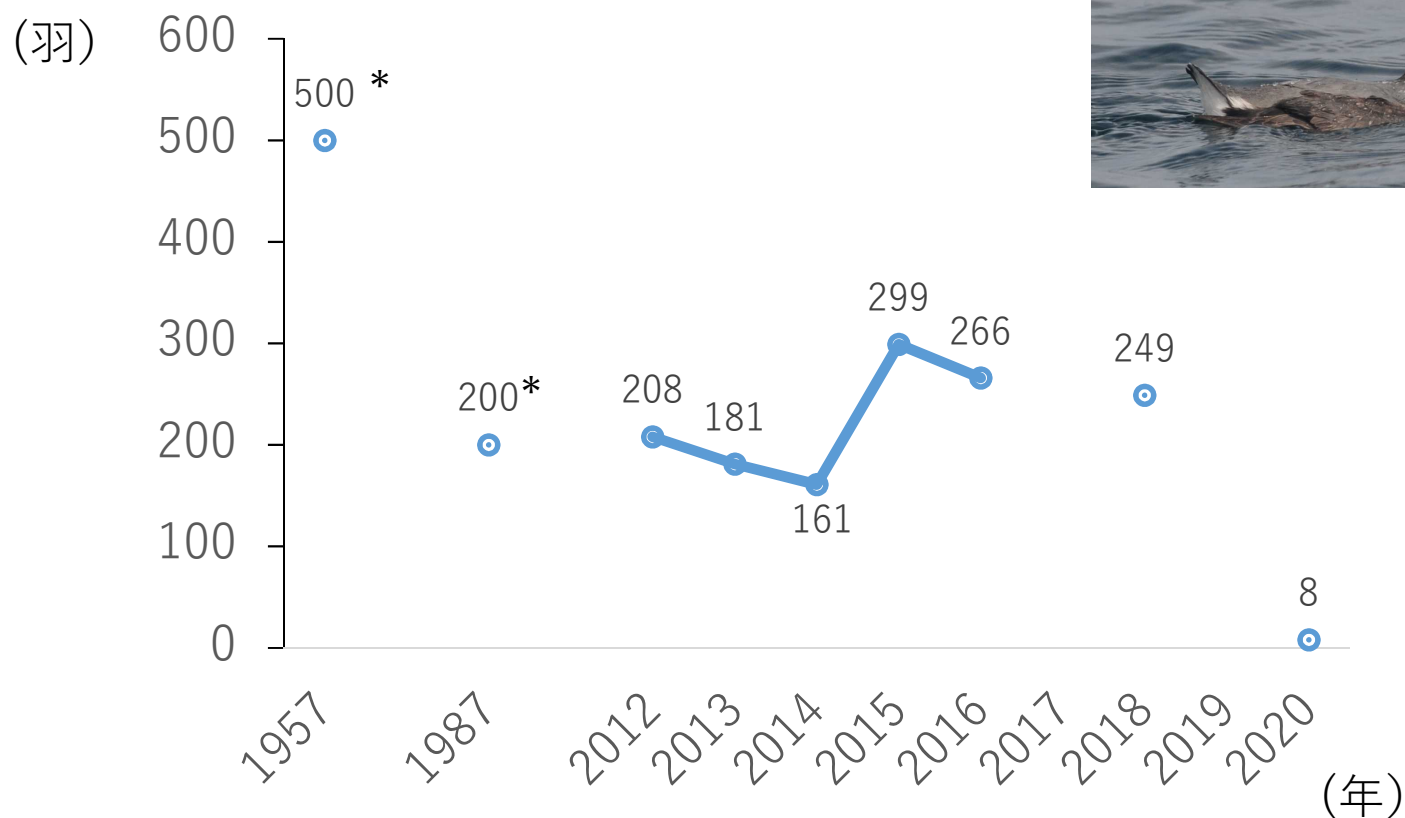
5. その他：ケイマフリ調査結果



5. その他：ウミスズメ調査結果








5. その他：ウミスズメ調査結果

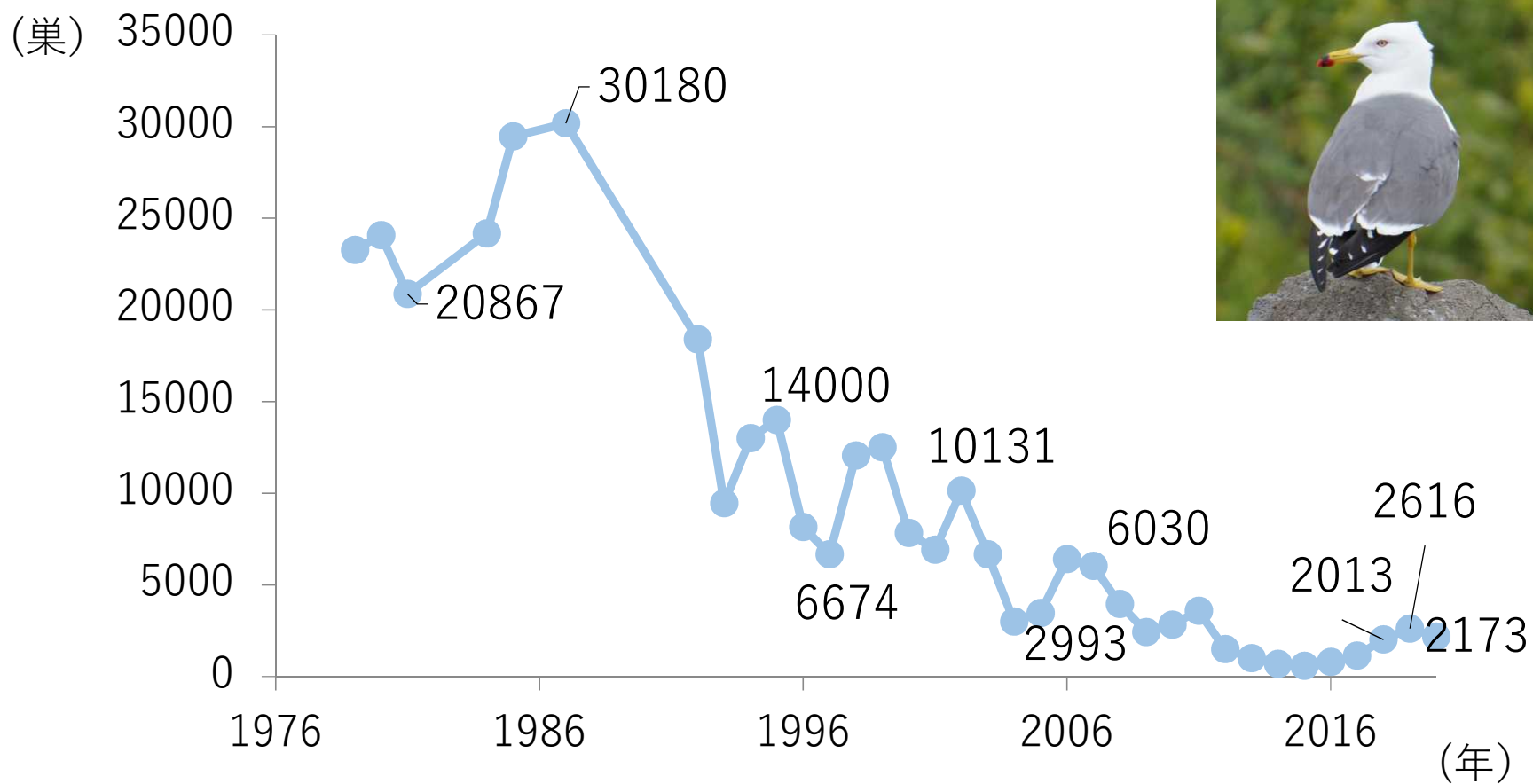


・継続的に調査を実施することが困難
→モニタリングサイト1000の調査対象種に追加してもらい調査を継続的に実施する

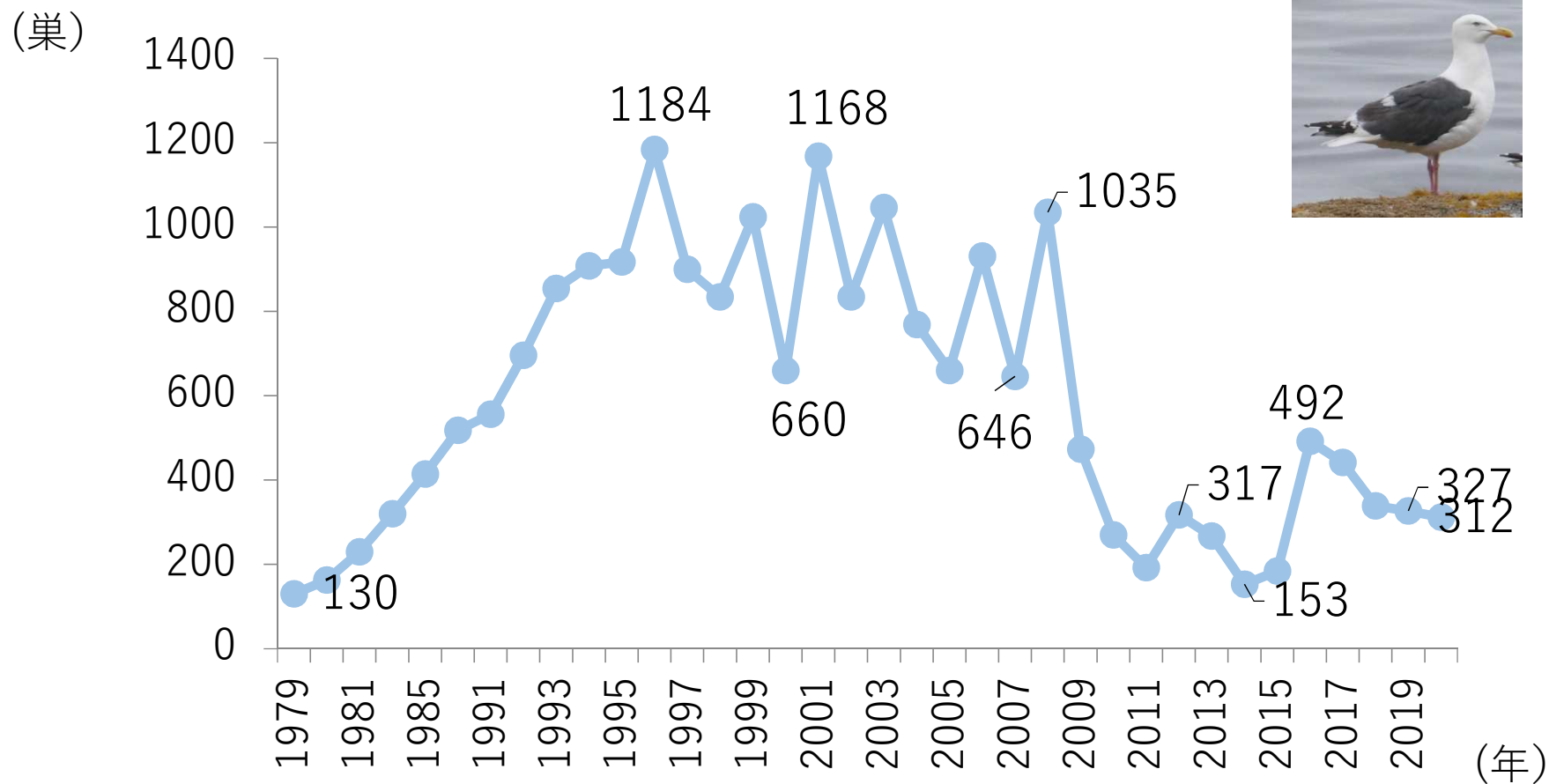
5. その他：その他の海鳥の調査結果

種名	2020年の 巣数	過去10年間の 傾向
ウトウ	379,195 (2016年の調査結果)	 微減 (2011年のデータ比)
オオセグロカモメ	312	 維持
ウミネコ	2,173	 微増
ウミウ	512	 微減
ヒメウ	106	 増加

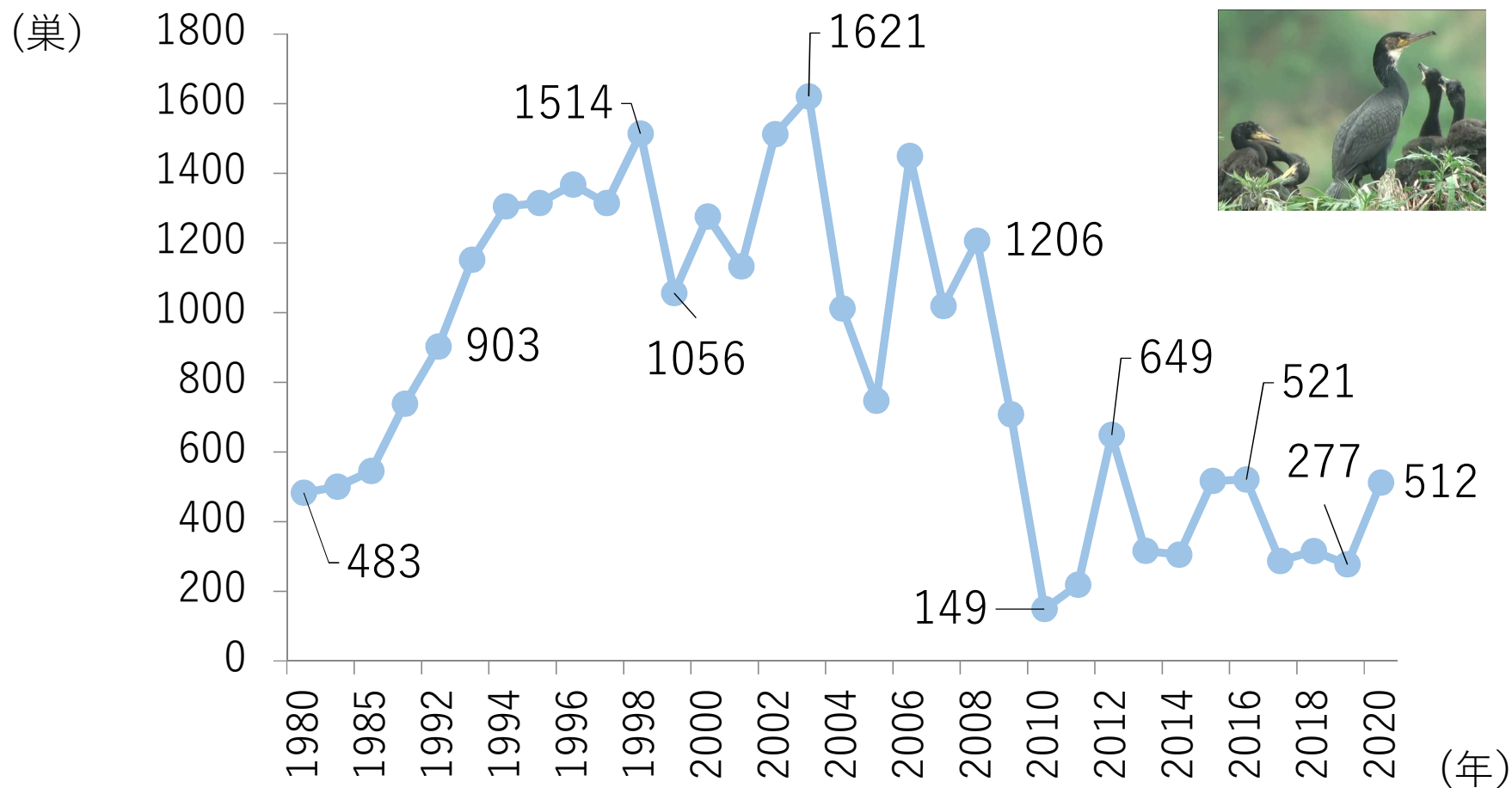
5. その他：ウミネコの調査結果 (参考)



5. その他：オオセグロカモメの調査結果（参考）

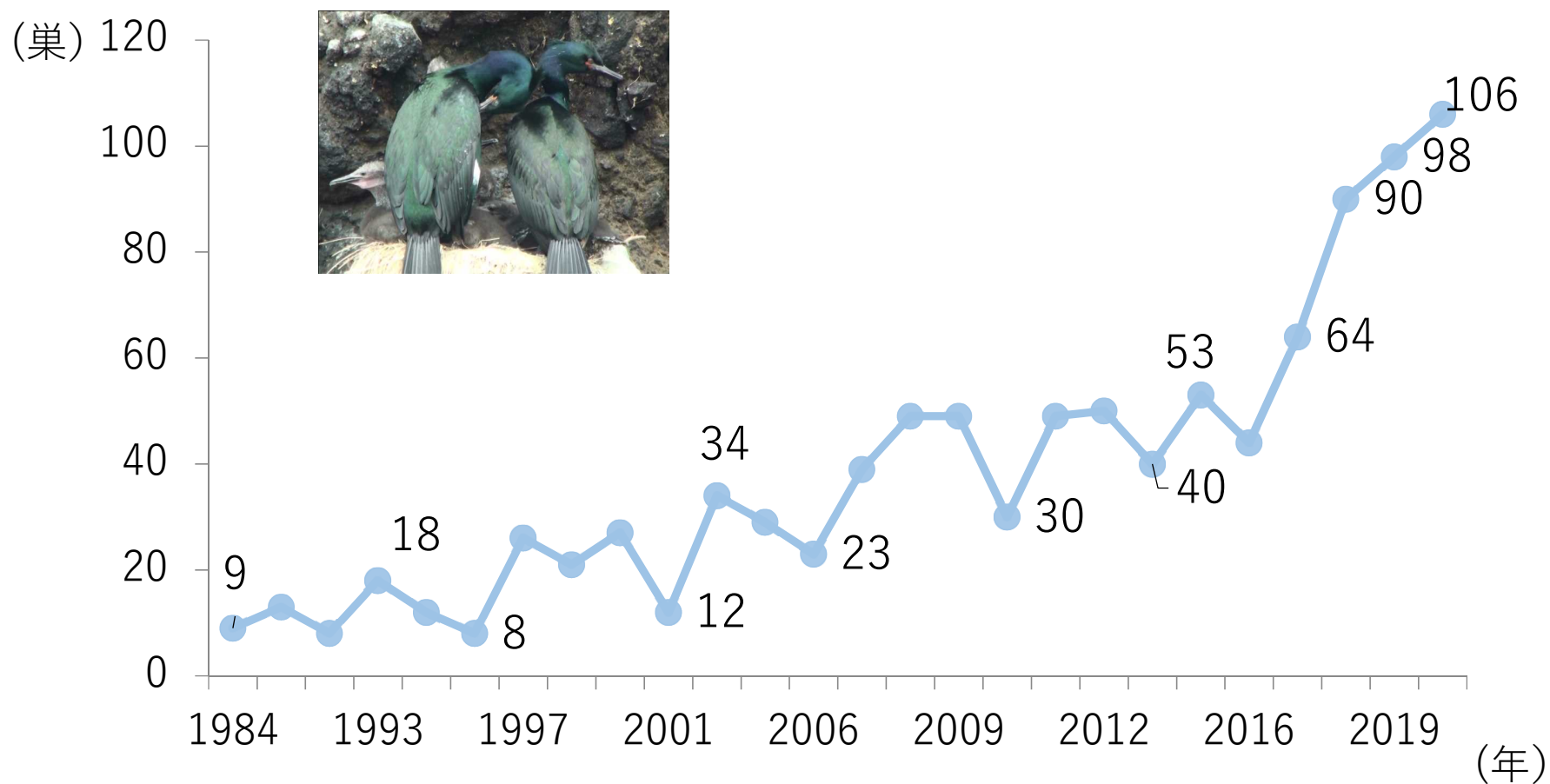


5. その他：ウミウの調査結果 (参考)

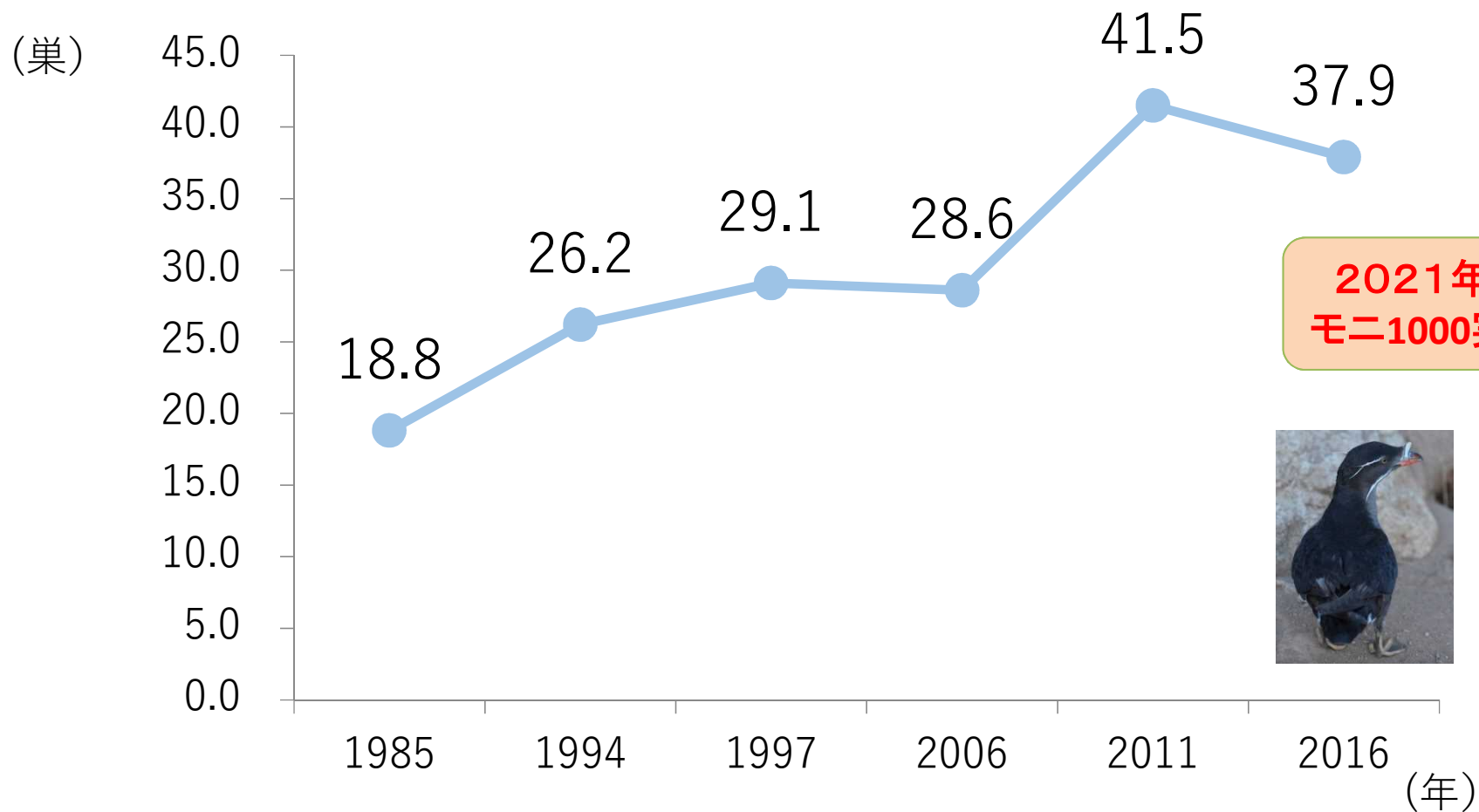


天売海鳥研究室未発表データ

5. その他：ヒメウの調査結果 (参考)



5. その他：ウトウ調査結果 (参考)



5. その他：その他の海鳥の調査結果（参考）

